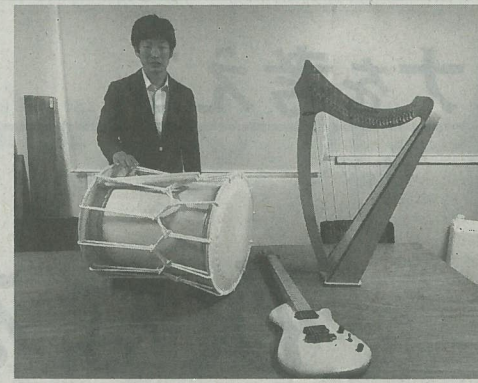


# フルタニランバー×楽器事業者

## 能登ヒバでギターや太鼓

木材卸会社のフルタニランバー(金沢市)と石川県を中心とした楽器メーカーが連携し、能登ヒバの楽器を制作するプロジェクトを始めた。音響効果に着目し、楽器材に活用する試みで、エレキギターや太鼓などを計画。同県の木材業界の活性化に加え、輸入木材が不足する「ウッドショック」に対応した楽器材の安定供給も狙う。



楽器プロジェクトで企画したエレキギターなどの楽器

### 輸入材不足受け 地元から安定調達

同プロジェクトは「アテノオト」。能登ヒバが別名アテということや、能登エリアなどにちなんだ名称だ。中心となるフルタニランバーの古谷隆明社長は「能登ヒバ材を楽器メーカーに提案し、新しい楽器材として価値を創造する事業」と説明する。すでに成果が出始めたものもある。

「エレキギターに使うと、軽くなり、中高音域の音が強く出る」。デザイン会社のseeca(金沢市)で楽器を担当する北出斎太郎さんは能登ヒバの楽器材として

の可能性に注目する。ギターのボディや弦の振動を受け止めるネックは海外産の木材が主流という。現在、プロの演奏家に試験的に使ってもらっている。価格は50万円からで、受注生産を予定している。北出さんは「国産材を使うことは、演奏者にも共感してもらえるのでは」と期待する。

和太鼓製造大手の浅野大鼓楽器店(石川県白山市)は、桶のように板を貼り合わせて締め上げる桶太鼓を試作した。20

22年春までの製品化を目指す。従来のスギと比べて曲げに強いと、胴を薄く加工することができるとの結果、振動が伝わりやすく、大きな響きを得られるという。

同社の浅野正規専務は「ウッドショックで外材が手に入りにくく、高くなってきた。県内から材料を調達できるメリットは大きい」と話す。価格はスギの太鼓と同様に15万~20万円程度になる見通しという。

総合楽器店大手の島村楽器(東京・江戸川)はウクレレを計画中だ。これに先だって、石川県の観光PRマスコット「ひやくまんさん」をあしらったギターピックを商品化、金沢フオーラス店(金沢市)で販売を始めている。青山ハープ(福井県永平寺町)は商品化が可能かどうかを検討中だ。

フルタニランバーは能登ヒバを楽器材に使ったため、強度を高める圧縮、経年劣化を抑える乾燥を「適材適所」に使ったという。古谷社長は「楽器は身近な商品で、価値が下がりやすい。これまで高級な外材に代わるサ

スティナブルな木材として提案できる」としている。同社は1904年創業。内装用の木製品の販売が主力で、2021年3月期の売上高は約15億円で、20億円の突破を目指す。アテノオトを通じて、地域材のブランド化効果

### ほくほくFG6%減益

#### 今期最終業績予想を上方修正

北陸銀行と北海道銀行を傘下に持つほくほくフィナンシャルグループは10日、2022年3月期の連結純利益が前期比6%減の200億円で、10%増の92億円だった。従来予想は185億円で、事業承継などのコンサルティングが好調で役員取引等利益が増えたほか、与信費用が期初の想定より減少しているため。

同日発表した21年4~9月期の連結決算は、純利益が前年同期比横ばいの131億円だった。北陸銀行の単独税引利益

### 共同組織、国認定拠点に

#### 富山大と熊本大 軽金属研究で初

富山大学(富山市)と熊本大学(熊本市)が共同で設置している、アルミニウムやマグネシウムなど軽金属の共同研究組織「先進軽金属材料国際研究機構(ILM)」が、文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定された。研究費の補助が得やすくなるほか、海外の研究者との交流を活性化させやすくなる。

同認定制度は、全国の関連分野の研究者が共同で利用できる拠点の整備を目的として設けられ、78拠点が認定されている。富山大ではアルミのサイクル技術の開発のほ



### 拓き人

福井から

福井県南西部の旧国名は若狭国、京に海産物を貢いだ御食園(みけつく)の二つとされる。その貢ぎ物を運んだ「鯖街道」の起点、福井県小浜市でサバの養殖を始めた男は農林水産省から市役所への出向者だった。官僚の道を捨てて小浜市に舞い戻り、2021年3月に第三セクター「まちづくり小浜」(福井県小浜市)の社長に就任したのが御子柴北斗だ。

長野県伊那市出身。京都大学で黒大豆を研究し、技官として農林水産省に入った6年目。小浜市役所に農林水産課長として出向を命じられたが、特に希望していたわけでもない。当時は水産の知識があるどころか、福井県内に足を踏み入れたこともなかった。

## 官僚の道捨て小浜に貢献

スーパードバイと並ぶ多種多様な地元産の鮮魚。サバのぬか漬け「へしこ」などの加工品も豊富だ。ただ、道に乗り始めた養殖事業肝心のサバは県外や海外に後ろ髪を引かれて東産ばかり。地元の漁獲量は京に異動。小浜への思いは落ち込んでいた。養殖は募った。「中央官庁のは手間もコストもかかると、手を出す漁業者はいなかった。観光客なら多少高くても、地元産のサバを食べたいはずだ。」

「餌やりくらいならやってもいいよ」。そう言っただけで、夏祭りや偶々出会った地元の漁業者だ。後、御子柴は仕事を辞めた。育ったサバは市が全量を買って販売する仕組を整えた。少しづつ県内外の企業や大学を巻き込み、現在は酒かすを混ぜた餌で育つ



御子柴北斗さん

### バラバラな地域の魅力1つに

山形県の風景や食文化といった、地元の人にはありふれた魅力に感じない要素こそ、観光客を呼び込めると感じた。そのため拠点となる宿泊場所こそが必要だった。本堂と三重塔が国宝の「明通寺」での瞑想(めいそう)体験や地元野菜の料理が魅力の「松永水感 藤屋」、漁村の古民家を改修した民宿で食事を楽しむ「海のオーベルジュ志積」、1棟貸しの町家に泊まる「小浜町家ステイ」。手掛けた施設に共通するのは食事や宿泊、文化体験などバラバラだった地域の魅力をつなぎ合わせ、新たな価値にしていることだ。

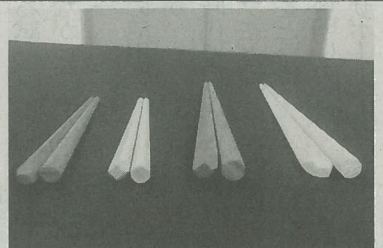
実は福井県の名所とされる東尋坊(坂井市)にも大本山永平寺(永平寺町)にも行ったことがない。「小浜が好きだから、何年いても見尽くせない。休日でも市内を回り、地域の人に話を聞いて回る。最近、町家の立ち並ぶ一角に自宅を購入し、改修に取りかかった。魅力あふれる小浜に、骨をうづめる覚悟だ。」

### 断面形状、異なる木箸

#### 小山箸店など 子供も使いやすい

「手ばしや」ブランドでオーガニックの箸を製造する小山箸店(石川県輪島市)は石川県工業試験場と共同で、1膳の断面形状が異なる木の箸を開発した。上に持つ一本が指先で動かしやすい八角形、下は親指と薬指でおさえやすい三角形になっている。箸を使い始める子供を対象に、2022年1月にも販売を始める。

商品名は「箸アシメ」。子供向けから大人向けまでホームベースで受注する。1膳の価格は能登ヒバが6000円程度、高



しい」と話す。製品化のきっかけは、小山さんが子供向けの箸について県に相談したことだ。県工業試験場は樹脂3Dプリンターで3角、4角、8角の断面形状の箸を試作、金沢大学と共同で4~9歳の100人以上を対象に使い勝手などを調査した。その結果、下の箸を動かさずに上の箸を回らせるため、上の方が良かった。そこで上は回転しやすく、卓上で転がりにくい八角形、下は回転しにくい三角形が適当と判断した。子供たちが試した結果、使いやすいという声もあつたという。

## 北陸

金沢支局 0776-42332-43331  
富山支局 0776-4322-34463  
福井支局 0776-12322-34490